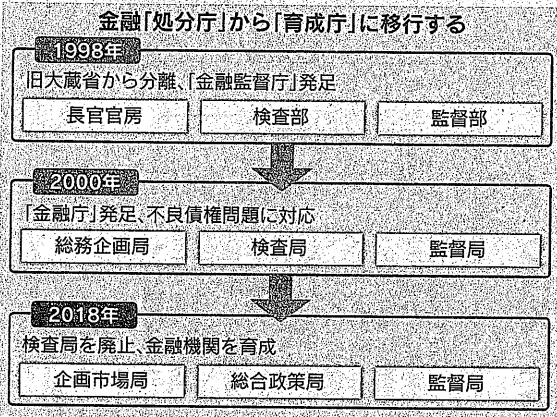


Behind the Curtain 金融庁、検査局廃止の舞台裏

危機から平時へ

銀行融資後押し

金融庁が8月31日、不良債権処理時代の象徴「検査局」を廃止すると発表した。人気ドラマ「半沢直樹」にも登場する検査局を解体する狙いは、「審の上げ下ろし」と批判された行政スタイルから脱却するため。企業や個人の成長支援へ銀行を動かすには、身を切る改革が必要と判断した。旧大蔵省から独立して20年目の2018年、金融庁は変身できるのか。



企業の成長促すねらい

「まな板の上の鯉(こい)ですから……」。31日、東京・霞が関の金融庁庁舎で、長く検査に従事してきた関係者は静かにつぶやいた。同庁16階では検査局廃止案に関する記者向け説明会が開かれていた。ドラマでは勢いのある癖の強いキャラクターが強調されがちだが、実は検査官はすでに世間のイメージと変わってしまった。

■強権路線は過去に
金融庁に在籍する検査官は240人。このうち5割超が民間銀行出身者だ。30年近く検査官を務める者が多く、その多くは旧大蔵省時代、検査局の最初の大仕事は旧日本長期信用銀行(現新生銀行)の破綻認定だった。旧大蔵省時代、検査官は「銀行を潰す」ことを得意とせず、銀行の健全化を促すことが主だった。検査官は銀行の不良債権を見つけて、検査マニュアルに沿って銀行に保守的な目で融資を促すように促す。組織を解体するのは、こうした時代が終わったことを意識し、銀行の健全化を促す意味合いがある。

金融庁が検査局を廃止する狙いは、重箱の隅っこのような検査をやめるためだ。ちよっとしたミス指摘し、行政処分を脅しても、バブル崩壊後に起きたような金融危機を防げるのだろうか。日本で再び引き起こすようなことがあれば、金融庁自体の解体すら現実味を帯びる。日銀との連携強化が今回の検査改革の成否を占う。

検査局廃止の裏で新しく増強する部隊がある。「マクロブルーテンス政策」と呼ばれる先端的なモニタリ

「重箱の隅つつかず」 日銀との連携も重要に

金融庁が検査局を廃止する狙いは、重箱の隅っこのような検査をやめるためだ。ちよっとしたミス指摘し、行政処分を脅しても、バブル崩壊後に起きたような金融危機を防げるのだろうか。日本で再び引き起こすようなことがあれば、金融庁自体の解体すら現実味を帯びる。日銀との連携強化が今回の検査改革の成否を占う。

検査局廃止の裏で新しく増強する部隊がある。「マクロブルーテンス政策」と呼ばれる先端的なモニタリング部隊を長官直轄で育成、融機関を監督する金融庁を丸ごと、長官直轄の組織に移管しようとしたが、最後は金融機関検査は監督局の中に残した。

「マクロブルーテンス政策」の最終的な責任を持つ主任委員(FCIB)も昨年12月、重要な対応を機動的に取る必要がある」と、野村総合研究所の木内登英氏。

英米は中央銀行が監督を主導する。日本はその逆で、金融庁は9月下旬、不正融資問題を起こした商工中金の検査に入った。総勢20人も送り、久しぶりに検査再び危機に陥らないように手を打ち始めた意味もある。

検査内容を裁量的に扱ってきた。旧大蔵省から引き継いだ検査官たちも共鳴し、検査至上主義とまでやゆされる強権路線を敷いた。

「金融機関の育成を優先する時代になった」。麻生太郎金融担当相は8月20日の閣議後会見で、検査局廃止の理由をこう語った。金融相はアベノミクス(安倍晋三首相の経済政策)の立役者の一人。日銀がスタートとさせた異次元緩和を踏まえた成長戦略作りも主導的な役割を演じる。検査局廃止の伏線は金融相が誕生した時、12年末から敷かれていた。不良債権は過去最低を

更新し続け、これ以上減らせないところまで減らした。しかし、銀行の貸し出し姿勢は堅いまま。本心に借りたいベンチャー企業や過去に財務で傷ついた企業は銀行と取引できなくなっていた。金融排除と呼ばれる不具合が起き、その原因を探ると銀行員のバイブルになっていた「検査マニュアル」と、それを運用する「検査官」に突き当たった。

「落胆した検査官も、銀行をしかるんじやなくて、褒めるんだよ」。「国内外のマクロデータはどうなっているんだ」。

「金融検査マニュアル」で画一的にチェックする時代は終わった。

当初、検査局幹部からこうしたしなめられた検査官はあつげにとられた。「レントゲンを撮れ！」と発破をかけられ、銀行に潜り病巣をいかに発見するかをたたき込まれてきた。独立心を持ち、長官に盾突いても真実を追及する気概で仕事をしていただけに、落胆した記憶が残った。

それから4年超。席の隣は監督局員。監督局と検査局は事実上融合し、常に一緒に動くチームだ。マクロ分析するためエクセルも使い慣れた。「金融検査マニュアル」で画一的にチェックする時代は終わった。

今年初め、金融相とともに育成庁作りを任ぜられてきた森信親長官は「廃止案」を持ち出した。反対しようとした検査官たちはもう金融庁にはいない。金融ミクロの分野も異次元緩和の時代に突入する。

(玉木淳、鈴木大祐)